

昔の苦小牧はそこら辺が凍っていて、僕の小さい頃は沼や公園、道路でもホッケーごっこをして遊んでました。もちろん自分の防具なんか買ってもらえないから、みかん箱のふたと木の棒でスティックにしたり、大きさがちょうどいい工現場の足場木を切ってパックにして、手作りの道具で遊んでいました。夏の鬼ごっこや缶けりみたいでしたよ。

## やっぱりホッケーが好きだから

くろつ しょうふう 66歳  
岩倉組で7年間DFとして活躍。引退後は、現在副理事長を務めている苦小牧アイスホッケー連盟で、苦小牧市のホッケー普及に尽力。



東洋大学のホッケー部に入部し、そこから真剣にホッケーを始めて、卒業後もせっかくだからこのまま続けたいと思いました。実家のある苦小牧に帰りたいという思いもあって、1970年に岩倉組に入団しました。実業団でプレーするとは非常に厳しいことでした。午前中は練習、午後から仕事、夜も練習という生活でした。もちろん試合で結果を残さな

きやいけな  
いし、真剣勝負ですよね。常に競争心を持って熱くなる。だから時折乱闘もあつたりします  
が、それも



岩倉組対国土計画の試合 黒津選手(岩倉組#16)と田中選手(国土#21)【黒津氏所蔵写真】

ホッケーの魅力で、観ていて面白いスポーツなんじゃないかと思えます。  
また、当時のホッケーは花形スポーツで、テレビでの放映や新春恒例の岩倉組対王子戦など、立ち見で身動きがとれないくらい観客が詰め掛けていました。  
「岩倉派」「王子派」と市民が二分されるほど、市民スポーツとしてホッケーが浸透していましたね。市民一体となった応援の中で、敵に抜かれそうになっても、

苦小牧の試合では最後の踏ん張りが違いました。試合後に応援の言葉をかけてもらったことも、ずいぶんと励みになりました。



オールドタイマーリーグでの黒津選手(写真一番右)【黒津氏所蔵写真】

このまちでホッケーと出会い、夢を追いかけて、この年までホッケー漬けの日々を送らせてもらいました。やっぱりスポーツが、苦小牧で出会ったホッケーが好きなんです。アイスホッケー連盟の活動とともに、自分も50歳以上のオールドタイマーリーグでプレーを続けています。今年3月15日に白鳥アリーナで全国大会が開催されますので、ぜひ応援で盛り上げていただければと思います。

# 思いはひとつ ここ苦小牧でアイスホッケーが いつまでも輝き続けるために

ホッケーへの熱い思いを胸に、集い語る男たちの

Special Interview